

令和4年度

北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業に係る  
点検・評価報告書

北海道農政部農村振興局農村設計課

## I 点検・評価について

### 1 点検・評価の対象地区

北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業の地域活動支援事業の実施地区のうち、令和4年度に事業を完了した由仁町由仁地区。

### 2 点検・評価の方法

事業実施地区を訪問し、事業の進捗状況の確認や関係者へのアドバイスを行っている北海道中山間ふるさと・水と土保全対策委員会委員からの意見や、毎年度の活動終了時に行う活動の評価・検証結果を基に道が評価した。

### 3 北海道中山間ふるさと・水と土保全対策委員会委員

所 属	職 名	氏 名	備 考
NPO 法人北海道食の自給ネットワーク	事務局長	大熊 久美子	
フードライター		小西 由稀	
北海道大学大学院農学研究院	准教授	小林 国之	
北海道土地改良事業団体連合会	技術監	中山 篤史	
北海道大学大学院農学研究院	准教授	山本 忠男	座長

(氏名五十音順)

### Ⅲ 由仁町由仁地区に係る評価について

#### 1 由仁地区の活動内容について

##### (1) 地域及び活動団体の概要

本地区の由仁町は、北海道の中央部、空知総合振興局管内の最南端に位置する、明治25年に戸長役場が設置され誕生した、面積133.74km<sup>2</sup>、人口4,871人、世帯数2,380戸（令和4年1月1日現在・住民基本台帳）の町である。町名は由来は、アイヌ語の「ユウンニ」（温泉があるところの意味）がなまったものといわれている。

北と東には夕張川をはさんで夕張市と栗山町、南は千歳市、安平町、厚真町、西は馬追山を境に長沼町に接している。町域は、東西が約8km、南北約32kmと細長く、標高は最高が506.6m、最低が24.7mで全体としては起伏が少なく、肥沃な土地が広がり農業に適している。気候は内陸のため寒暖の差はあるが、積雪は少なく温暖である。

基幹産業は農業であり、総農家数337戸、耕地面積5,850ha、稲作、畑作、園芸を主体とする農業地帯である。近年はハーブなどの観光資源にも力を入れており、国内最大級を誇る英国風庭園「ゆにガーデン」が観光名所となっている。

本地区は、平成24年、普及センターが若手農業女性を対象に開催した農村セミナーの参加女性から、「町外から嫁に来たばかりで町内に知人が少ないため、農家の友人を作り情報交換したい。」「地域や農業のことがわからず不安なので、もっと知りたい。」などの意見があったことから、平成25年3月に若手女性農業者の会を設立した。

会の目的は、「①仲間作り」、「②地域や農業について知ること」、「③②の成果により地域に貢献すること」で、対象者は由仁町内の40歳以下の農業女性とし、年齢制限を設けることでメンバーの流動化を図っている。

会名の『WEAVE』は、「編む」、「織る」などの意味で、女性らしく丁寧に活動をしたいという思いが込められている。

この会の活動を促進することにより、高齢者などが蓄積している食に関する伝統技術を継承し、イベントなどを通じて町内外の活発な交流を進めることで、『WEAVE』のメンバーを含め多くの人たちが地域の魅力を再発見し、コミュニティが元気になり、生き活きと農村生活を送ることを目的としている。また、乾燥野菜の販売などを通じて、『WEAVE』の持続化を図り、メンバーの生きがいの創造を進め、このような仲間の拡大を促進することで、由仁町全体の魅力と地域力の向上を図るものである。

(2) 活動の推移

活動事項	年度	活動状況
学習・グループ活動事業	30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>札幌地下歩行空間において野菜直売及び乾燥野菜販売活動（8月）参加者数：8名</u></li> <li>・ <u>地域作りと乾燥野菜の製造販売をテーマにした先進地視察研修「カントリーパパ」、「すずきっちゃん」（11月）参加者数：12名</u></li> <li>・ <u>農薬についての勉強会・グループの活動方針についてのワークショップ（12月）参加者数：12名</u></li> <li>・ <u>味噌加工実習（2月）参加者数：7名</u></li> </ul>
	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>札幌地下歩行空間において野菜直売及び乾燥野菜販売活動（7月）参加者数：10名</u></li> <li>・ <u>札幌地下歩行空間において野菜直売及び乾燥野菜販売活動（9月）参加者数：6名</u></li> <li>・ <u>野菜に関する情勢調査、野菜の販売、農業生産工程管理をテーマにした先進地視察研修「札幌みらい中央青果（株）」、「AmbitiousFarm（株）」、「江別製粉（株）」（11月）参加者数：10名</u></li> <li>・ <u>乾燥野菜製造に係るHACCP勉強会（6月）参加者数：6名</u></li> <li>・ <u>味噌加工実習（2月）参加者数：7名</u></li> </ul>
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>スマート農業機器操作体験研修会（10月）参加者数：9名</u></li> </ul>
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>有機農業についての勉強会（5月）参加人数：6名</u></li> <li>・ <u>野菜の保存方法についての勉強会（6月）参加人数：8名</u></li> <li>・ <u>「（有）大塚ファーム（新篠津村）」、「YUMEYASA I（石狩市）」視察研修（11月）参加人数：6名</u></li> </ul>
	30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>乾燥野菜の製造・販売（8～9月）参加者数：14名</u></li> <li>・ <u>「食のブランド・ステップアップ相談会 in 空知」に参加（10月）参加者数：2名</u></li> <li>・ <u>乾燥野菜を使ったスープの販売会（10月）参加者数：約</u></li> </ul>
乾燥野菜加工販売事業	30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>乾燥野菜の製造・販売（8～9月）参加者数：14名</u></li> <li>・ <u>「食のブランド・ステップアップ相談会 in 空知」に参加（10月）参加者数：2名</u></li> <li>・ <u>乾燥野菜を使ったスープの販売会（10月）参加者数：約</u></li> </ul>

		<u>50名</u>
	1	・ <u>乾燥野菜の製造・販売（8～9月）参加者数：13名</u>
	3	・ <u>作業の効率化、商品の改善についてのワークショップ（3月）参加者数：5名</u> ・ <u>乾燥野菜の販売・サンプル配布（8月）参加者数：4名</u>
	4	・ <u>乾燥野菜の製造・販売（8月）参加人数：10名</u>
交流事業	30	・ <u>ハロウィンカーニバル(10月)参加人数：120名</u>
	1	・ <u>消費者団体アグリション 21 視察交流会（6月）参加者数：24名</u> ・ <u>クリスマスパーティー（12月）参加者数：約100名</u>
	2	・ <u>野菜の直売活動（町内）（9月）参加者数5名</u>
	3	・ <u>野菜の直売活動（町内）（7月）参加者数：4名</u> ・ <u>野菜の直売活動（町内）（8月）参加者数：5名</u> ・ <u>野菜の直売活動（町内）（9月）参加者数：4名</u> ・ <u>野菜の直売活動（江別）（8月）参加者数：4名</u> ・ <u>野菜の直売活動（千歳）（7月）参加者数：2名</u> ・ <u>野菜の直売活動（千歳）（9月）参加者数：2名</u>
	4	・ <u>「農猿（南幌町）」と交流会（4月）参加人数：9名</u> ・ <u>町内若手女性農業者とのランチ交流会（4、5、6月）参加人数：計21名</u> ・ <u>野菜の直売活動（町内）（7月）参加者数：4名</u> ・ <u>野菜の直売活動（町内）（8月）参加者数：4名</u> ・ <u>野菜の直売活動（町内）（9月）参加者数：2名</u> ・ <u>クリスマスパーティー（12月）参加人数：162名</u>

注) 下線は、北海道中山間ふるさと水と土保全対策事業より対応

## 【活動状況写真】

平成 30 年度

○札幌市チカホでの直売イベント「クラシェ」の販売の様子



来客多数で野菜は完売した。由仁町のパンフレットとうちわを配布した。

○先進地視察研修でカントリーパパ、すずきっちゃんを訪問

<カントリーパパ>



地域の魅力向上やレストランの取組について研修した。

<すずきっちゃん>



乾燥野菜の製造方法、加工施設について学んだ。

○味噌造り実習



地域の味噌製造農家を講師に味噌造りについて実習した。

○ハロウィンカーニバル



多数の親子連れが参加、ゲームイベントを実施し、乾燥野菜のカレーやかぼちゃスープを振る舞った。

○勉強会・活動内容検討のワークショップ



農薬の使用方法についての勉強会の後、活動内容について検討するワークショップを行った。

## 令和元年度

○札幌市地下歩行空間での直売イベント「北の恵み愛食フェア」に出店



来客多数で野菜は完売した。由仁町のパンフレットとうちわを配布した。

○先進地視察研修で札幌中央卸売市場、Ambitious Farm、江別製粉を訪問  
<札幌中央卸売市場(札幌みらい中央青果)>



卸売市場のしくみや役割、求められる野菜について研修した。

<Ambitious Farm>



野菜直売の取り組み、GAPの導入とその効果について学んだ。

○味噌造り実習



地域の味噌製造農家を講師に味噌造りについて実習した。



○クリスマスパーティー



多数の親子連れが参加、ゲームやイベントを実施したほか、乾燥野菜を利用したスープ、炊き込みご飯の販売も行った。

○HACCP 勉強会



HACCP の考え方を取り入れた衛生管理を学び、乾燥野菜製造マニュアルの修正点について検討するワークショップを行った。

**令和2年度**

○由仁町「牛小屋のアイス」で野菜直売を実施



来客多数で用意した野菜はほぼ完売した。

## 令和3年度

### ○学習・グループ活動事業

- ・スマート農業機器操作体験研修会



ヤンマーアグリジャパン(株)を講師に、自動運転トラクター、自動操舵田植え機等の操作体験研修を行った。

### ○乾燥野菜の加工販売事業



ワークショップを行い、作業の問題点や効率化について検討した。作業効率化のため、それまで4種類製造していた乾燥野菜の品目数を「スープ用」のみに絞った。

### ○交流事業

- ・町内外での野菜直売の実施



コロナ禍で札幌での販売が難しくなったため、地元販売先を開拓し、直売を行った。直売は、「セブンイレブン駐車場」、「牛小屋のアイス」、「江別市駄菓子屋ミル」、「千歳市イロイロリビングマルシェ」で行った。

## 令和4年度

### ○学習・グループ活動事業

・有機農業についての勉強会



・野菜の保存方法についての勉強会



普及センターを講師に、有機認証制度や有機農業の特徴について勉強した。また、直売活動や乾燥野菜製造に向けた野菜の保存方法について勉強した。

### ○乾燥野菜の加工販売事業



販売しやすい単価とするため4人用のみだったのを、2人用を開発した。

### ○交流事業

・町内での野菜直売の実施



コロナ禍のため、地元での野菜直売を行った。

直売は、「セブンイレブン駐車場」、「牛小屋のアイス」、「三川ときどき市場」で行った。

・町内女性農業者とのランチ交流会



新規会員の獲得を目指し、町内若手女性農業者とのランチ交流会を3回実施し、会員外の農業女性8名との交流を行った。

- ・ 南幌町の農業関係団体「農猿」と交流会



組織体制やイベントの実施方法等について情報交換を行った。

- ・ クリスマスパーティー



子供向けに、食育をテーマに「食育絵本読み聞かせ」、「トラクター展示」、「おやさいクイズラリー」などの企画を行い、町内外から 162 名の参加があった。

### (3) 活動への委員会の助言と反映状況

#### ① 委員会からの主な助言内容

- ・ すべて自分たちでやらずに地域の力を借りてはどうか。
- ・ 「40 歳定年制」や「農家限定」について、メンバーが減少していることから見直してはどうか。
- ・ 乾燥野菜の製造について、効率的に行い、一部のメンバーに負担がかからないようにしたほうがよいのでは。

#### ② 委員会の助言の反映及び効果

- ・ 「すべて自分たちでやらずに地域の力を借りるように」との助言を受け、Xmas パーティーでは、商工会や町内外の飲食店等から応援や出店を得ることができた。
- ・ 「40 歳定年制」や「農家限定」について見直すよう助言を受け、組織体制について検討し始めている。
- ・ 乾燥野菜について、助言を受け、原価計算や負担軽減のための検討などを行うことができた。

(4) 目標の達成状況

活動計画に明記した目標（数値・定性）の達成状況を以下に示す。

目標（数値・定性）	目標の達成状況
<p>1 学習・グループ活動事業</p> <p>町外から嫁いできた女性が、地域の魅力を認識し地域に溶け込むための活動を行うとともに、地域の食の伝統の継承を目指す</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域作りと乾燥野菜の製造販売をテーマにした先進地視察研修を実施した。(H30)</li> <li>・ 農薬についての勉強会を行った。(H30)</li> <li>・ 野菜に関する情勢調査、野菜の販売、農業生産工程管理をテーマにした先進地視察研修を実施した。(R1)</li> <li>・ 乾燥野菜製造に係るHACCPの勉強会を実施した。(R1)</li> <li>・ 味噌加工実習を実施した。(R1)</li> <li>・ スマート農業機器操作体験研修会を実施した。(R3)</li> <li>・ 野菜の保存方法についての勉強会を行った。(R4)</li> <li>・ 有機農業についての勉強会を行った。(R4)</li> <li>・ 農家の嫁としての加工や営業への取組と有機栽培についての視察研修会を実施した。(R4)</li> <li>・ SNSを活用した農産物のブランディングや、フォロワーを増やすための視察研修会を実施した。(R4)</li> </ul>
<p>2 乾燥野菜加工販売事業</p> <p>生産した野菜の有効活用、由仁町の特産品としての商品を目指した乾燥野菜の販売、商品の改善、販売促進の取組を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乾燥野菜の製造・販売を行った。(H30、R1、R2、R3、R4)</li> <li>・ 「食のブランド・ステップアップ相談会 in 空知」に参加し、パッケージ等の改良を検討した。(H30)</li> <li>・ HACCPに準じた製造マニュアルを作成した。(H30～R1)</li> <li>・ 乾燥野菜の製造原価を計算した。(R1)</li> <li>・ ワークショップ形式で作業の効率化や商品の改善について検討を行った。(R3)</li> <li>・ 会員の負担軽減を目指し、4品目から「スープ用」のみに品目数を絞った。(R3)また、販売しやすい単価とするため4人用のみだったのを、2人用の製造を行った。(R4)</li> <li>・ 製造技術の平準化や新規会員への伝承に取り組んだ。(R4)</li> </ul>

<p>3 交流事業</p> <p>野菜の直販を通して消費者交流を図る。魅力あふれる地域づくりにつながるイベントとして「クリスマスイベント」を開催する。SNSを活用して、地域の魅力を発信していく</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 野菜の直販活動を実施した。(R1、R2、R3、R4)</li> <li>・ クリスマスパティーを実施した。(R1、R4)</li> <li>・ 新規会員の獲得を目指し、町内若手女性農業者とのランチ交流会を3回実施し、会員外の農業女性8名との交流を行った。(R4)</li> <li>・ 南幌町の農業関係団体「農猿」と交流会を実施し、組織体制やイベントの実施方法等について情報交換を行った。(R4)</li> </ul>
--	--

## 2 由仁地区の活動の評価について

当該地区の活動を、(1) 活動の状況、(2) 活動への支援体制、(3) ふる水事業の目的(趣旨)達成の可能性という3つの視点に基づき評価する。

### (1) 活動の状況

本地区の主な活動内容は、地域・農業への理解を深め、仲間づくりを行うことで地域の活性化に貢献することであった。

学習・グループ活動事業については、野菜に関する情勢調査や加工販売をテーマにした先進地視察研修を行うなど、様々な勉強会・研修会を通じて地域・農業への理解を深めることが出来た。地域の食の伝統の継承に向けた活動として味噌加工実習を実施した。また、活動紹介のパンフレットを作成し、町内新規成婚者や関係機関に配布するとともに、SNSを積極的に利用したグループの活動や農作業の様子を発信することで活動のアピールを行った。

乾燥野菜加工販売事業については、ワークショップ形式で製造マニュアルの作成、改善、作業の効率化や商品の改善について検討した。その結果、品目数を絞りつつ、販売しやすい単価とするため、4人用のみの商品に加え2人用も製造するなど、会員の作業に対する負担の軽減と販売の拡大を図っている。

交流事業については、野菜の直販活動を実施し消費者との交流を図った。クリスマスパーティーについては、新型コロナウイルスの影響で、R2、R3は開催することが出来なかったものの、R1、R4には町内外の親子連れが多数参加し地域の活性化に寄与したと思われる。また、町内若手女性農業者と交流会を行うなど、会員外の農業女性と交流を深め新規会員確保のための取組を行った。

### (2) 活動への支援体制

由仁町は、野菜の直売活動、クリスマスパーティーについて後援した。庁舎内での野菜の販売活動を認めた。また、クリスマスパーティーでは、開催施設利用料の割引を行った。

そらち南農協からは、クリスマスパーティー開催の際に、イベント景品と協賛金の提供をいただいた。

### (3) ふる水事業の目的（趣旨）の達成の可能性

地域の若手女性農業者団体「WEAVE」による活動は、地域・農業への理解を深めるための勉強会・研修会を通じて会員同士の結び付けを深めた。野菜の直販活動やクリスマスパーティーなどの交流事業の実施により、町内外の活発な交流を進めたことは、今後の地域活性化につながる取組であったと評価できる。

また、乾燥野菜加工販売事業については毎年度、販売品目の見直しや、製造マニュアルの改善を行っているが、メンバーの負担軽減と効率化が求められており、次年度以降の課題であるとも言える。

新規会員の獲得、会員数の減少については、新型コロナウイルス感染拡大の影響で人と人の直接的な交流に制限があったことから、目標が達成できなかったことはやむを得ない結果ともいえるが、次年度以降に会員に関する規約改正（40歳での退会の見直し）に向けて取り組んでおり、今後の会員数確保は期待出来よう。

本事業終了後も、他農業者との交流や情報交換を含め、学習・グループ活動事業、交流事業を継続することで、目標である乾燥野菜の販売などを通じた活動の持続化を図り、メンバーの生きがいの創造を進め、仲間の拡大を促進することで、これまで以上に地域の活性化が図られることを期待するものである。